令和５年度第３回　宗像市市民文化・芸術活動審議会議事録(要旨)

日　　時		令和６年　3 月 27 日（水）　14:00～16:00
会　　場		宗像市役所　本館　304 会議室
出席者	委　員	■原　■大澤　■吉田　■秦　■牟田 ■境　■福間　□櫻木　（敬称略）
	事務局	■大塚　■南　■髙尾　■井上

１．会長あいさつ

2. 審議事項

(1)「文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン(R7.4～)」仮称の策定について

(2)令和６年度 宗像市文化芸術活動事業補助金の見直しについて

高尾：前回(1 月)の審議会では、これまでの総合計画の施策を「鑑賞・体験・作り手」と「まちづくり・仕組みづくり」の 2 つの大きな施策に分けていただいた。しかし、文化芸術の分野で 1 つにまとめないといけなくなった。そのため、前回の審議会で 2 つに分けた内容をもとに事務局側で１つにまとめた。皆さんには、事務局の案をベースに協議していただきたい。

原：まず、(1) 【宗像ユリックスを中心とした文化芸術活動と鑑賞機会の確保】に関してご意見等あるか。

秦：中心としたとは具体的にどういうことを意味しているのか、コミュニティセンターを活用した発表・体験はこれに含まれるのか。

高尾：コミュニティセンターやメイトムなども含め、ユリックスを核とした鑑賞機会の確保という意味である。ユリックスという場所を入れるかどうかも含め議論していただきたい。

大澤：宗像ユリックスが市全域にとって、どれくらい中心力を持っているのかを踏まえておく必要がある。市の広さ、人口規模の中でみんなが集まれる場所であり、ユリックスとしても文化芸術活動の機会の提供を市全域に対して行っていて、ポテンシャルがあるのであれば、ユリックスを中心としてという表現でもいいと思う。例えば、鑑賞機会としては中心力をもっていたとしても、文化芸術活動という広い見方をすると市内の公民館など全域を見たときに文化芸術活動は幅広く行われていてもいいという認識があれば、(1)は宗像ユリックスを中心とした鑑賞機会の確保にとどめておく。(2)で文化芸術活動の体験や発表機会に関しては、ユリックス以外の会場もあるという使い分けもあると思う。そのあたりは市民目線で見たときに宗像ユリックスの機能はどこを強化していくのかを議論してもいいと思う。

原：個人的に感じるのは、ユリックスは中心的な機能を持ちつつ、細やかな色々なジャンルに 100%対応しているかといわれると宗像ユリックスの機能の性質上難しいと感じている。どちらかといえば、クラシック音楽を中心として、市内の小中高にアウトリーチ事業を行ってきたという背景があるので、市民が公民館等で行っている活動をユリックスが担っているかというと、どうなのかなと疑問に感じる。

福間：規模とか設備の状況から、質の高い芸術を鑑賞しようとするとユリックスが中心にならざるをえない。地域の公民館・コミュニティセンター等での活動の体験は(2)に当てはまるので、鑑賞する機会となれば具体的にどのような内容なのか。例えば、小中学校の音楽の発表会を考えることになるのか。そこをはっきりしたい。

吉田：ユリックスは、クラシックや有名なコンサートの会場のイメージが強いと思っていたが、市民活動のような 4 大文化事業もユリックスで行われているのか。

高尾：そうですね。

南：位置づけとしては、市はワークショップの事業を 2 つ持っている。1 つは市民学習ネットワーク。講師も生徒も市民限定 500 円くらいで受講できるワークショップ。ユリックスのにっこり文化講座は、値段も高い代わりに技術の高い講師が市外からきて、自分のレベルや目標に合わせて参加できる。市民学習ネットワークは、メイトムで開催しているが、1 年に 1 回だけはユリックスのイベントホールで行う。発表の集大成の場や上質な体験ができる場としてユリックスという位置づけ、一面も持っている。

原：(1)と(2)は重複する部分があるため、(1)の文化芸術活動という表現は(2)に入る。(1)は宗像ユリックスを中心とした鑑賞機会の確保ということでまとめて良いか。秦先生が提案したユリックスを中心としたという表記はいかがしましょうか。

南：例えば、市内の音楽に関してはユリックスがアウトリーチ事業を実施するなど、ユリックスがマネジメントを行っている事業もたくさんあるため、宗像ユリックスを中心とした鑑賞機会の確保という表現はおかしくないと思う。

原：(1)は、【宗像ユリックスを中心とした鑑賞機会の確保】。(2)は【市民文化芸術活動の体験・発表機会の充実】という案で事務局へ提出してよろしいか。(2)の説明文で、コミュニティセンター等含めた体験・発表機会の充実という文言を落とし込むと(1)と(2)のすみわけができると思う。

大澤：良いと思う。意図を補足すると、市の文化振興の中で年々、ユリックスの力が求められている。(1)では、マネジメントやアウトリーチ事業の部分はユリックスがやっていくというのは鑑賞機会の確保にかかせない。文化芸術活動の発表と体験は、ユリックスだけでなく、ユリックスと力を合わせて、公民館やコミュニティセンター等で実施し、育てていきたいという意図がある。

原：では、(1)は【宗像ユリックスを中心とした鑑賞機会の確保】、(2)は【市民文化芸術活動の体験・発表機会の充実】ということで修正をお願いしたい。次に、(3)【文化芸術活動を行う個人や団体の育成支援】に関してご意見等をお願いしたい。

秦： 芸術を志す市民は都市部へ活動拠点を移している環境要因は何か。それが分からないと育成支援に繋がらないと思う。目指す人は生まれているが、成長するに従って都市部に移って行っている現状はないのか、そうなった場合に宗像の地に居続けてもらうことを目指しているのか。成長する環境はあるが、成長すると出て行ってしまうのか。など分析があるといい。

原：つなぎ留めておく視点があるといい。福岡市と宗像市を比べると、福岡市はイベントの規模や数も多いため、都市部に流れるが、宗像市で文化活動補助金をベースに今があるという状況を若手芸術家や様々な団体に示せるような文言を入れたらよいと思う。例えば、芸術家を目指す人が生まれたり、成長したりする環境が整っていない理由の1つとして、ユリックスのアウトリーチ事業に若手芸術家が積極的に活動できるような提案をどこかで入れてもよいと思う。

南：総合計画のフォーマットが市役所で統一されていて、最初に現状と課題を書くと指示がでている。ジャンル・コンテンツによって違いがあり、若手が生まれにくいと示しているのは、例えば、伝統文化。市で文化祭の発表があっても、各団体の高齢化が進んでおり、子どもが入らない。ほとんどの団体が高齢化で後継者がいない現状。環境が物理的なハードだからか、場所または状況・雰囲気が要因なのか答えをつくるときに必要である。文化芸術の分野ごとで対応の仕方が違うので、それを踏まえたうえで、こういう表現の仕方がいいという意見をいただければと思う。

秦：文面として、現状であり、将来にわたって文化芸術活動の担い手が持続・発展するための環境が充分に整っていない。という書き方であれば、(1)と(2)の働きが(3)にも繋がっていく。

福間：文言が長くなるとすっきりしない。そのため、芸術を志す市民は都市部へ活動拠点を移しているのが現状である。で区切って、そのあとで、目指すところを表記したらすっきりすると思う。

原：(3)に関しては、担い手が育っていないなど、今出てきた意見を事務局でまとめて修正をお願いしたい。次に、(4) 【市の魅力となる文化芸術の創出】について「宗像ユリックスには、近隣にはない大型イベントが実施できるホールを有しているが、施設の活用が不十分です。」という課題が出されていますが、ご意見等お願いします。

大澤：宗像市の魅力が宗像ユリックスの会場頼みでいいのかと思う。宗像市には様々な文化資源があって、伝統的な文化もあると思う。市内を広く見るとユリックスだけではないと思う。ここでは、市の魅力となる文化芸術ということを考えると、ここまでユリックスの活用が不十分だから活用しましょうというロジックの立て方が無理矢理な感じがする。そのあたり皆さんの意見が聞きたい。

秦：市の魅力となる文化芸術といえば、福岡市や北九州市では何をさすのか。

南：北九州市は、アニメや漫画のサブカルチャを全面的に押し出して、ほかの自治体がやっていないため1つの魅力になっている。その発展で、東京ガールズコレクションやファッションショーが北九州で開催できている。それは、北九州市が個性を打ち出して成立させているからだ。福岡市は、昨年から通年にわたってアートイベントを開催している。特に福岡市には2つの美術館があるので、再整理をして、特に秋は集中的に開催している。そのため、福岡市はアートの形が見えてきたなというところ。では、宗像市はどうするのか。

秦：つまり、両市とも発信する文化の内容が先にあって、決して器があるから発信するという発想ではない。そのため、その説明文はユリックスを活用しましょうという言い方に聞こえてくるため、書き換えないといけないと感じる。【市の魅力となる文化芸術の創出】は重要な施策として必要。宗像ユリックスという大型イベントが実施できるホールもあり、市の魅力となる文化芸術を発信するステージはあるが、十分に発揮できていないというのが現状と考える。

南：市内には、地域・歴史・現代アートという組み合わせの大きな文化イベントが2つあるが、宗像市文化芸術活動事業補助金を活用してスタートしている。その点では、魅力の1つとして記載してもいいと思う。ステージ(伝統文化)や音楽は、後継者不足や大きなイベントを開催してもお客さんがあまり入らず、活かしきれていない。コンテンツもユリックスがうまく選ばないとホールが空きっぱなしになっており、課題として極端に目立つので自治体としての立場・目線で書いている。そこの部分をうまく表現できないか審議委員の皆さんにご意見をいただきたい。

原：宗像ユリックスと固有名詞を書かないような文言にするということか。

南：それもありだと思う。

大澤：(4)の説明文にあえて、宗像ユリックスという文言は入れなくていいと思う。要するに市の魅力となる文化芸術がまだまだ掘り起こせていない文化資源を披露する場所がまだあり、開拓できるという書きぶりがいいと思う。

福間：宗像市と言われたときに何をパッと思い浮かべるか。ほかの地域を例にみると、北九州だと松本零士を絡めたイベントや毎年開催している。わっしょい百万夏まつりは人数も多くすごい勢いで、地域に根付いている。飯塚市では、車いすテニス大会や新人音楽コンクールも定着している。直方市は、お茶の祭りが市をあげてやっている。そういう目玉になるようなものを舞台でやるだけではなくて、広めて考えていく方向でいけばよいと思う。ユリックスは位置では十分、ユリックスの存在感はアピールできているので、ユリックスという文言を入れなくてもいいと思う。幅広い意味で宗像市を打ち出していくのもよいと思う。

原：今、提案があった内容をまとめると、宗像ユリックス以外にも発掘するべき文化芸術

や逆に宗像市がこれといったものを有していないと感じた。そのため、そういうものを発掘していくということが文化芸術の創出に繋がるのではないかと考えた。そういう内容を説明文に書いていただく方向でよろしいか。では、(5)【文化芸術に関する学校・地域との連携】に関してご意見等をお願いしたい。まず、継続的な市内の小・中・高・大学と連携した文化芸術活動とはアウトリーチ事業以外にどのようなことをさすのか。逆に学校現場から宗像市や宗像ユリックスに提案していく総合的な活動ができていないという認識か。

南：これもコンテンツによって違いがあり、例えば、まだ実行できていないが、小学校には昔でいう必修クラブというクラブ活動が月に１回ある。小学校には半分以上、総合文化部のような文化芸術が集まった部があることもある。例えば、そこに指導者として、文化協会の茶道の先生を派遣するなど繋ぎやマネジメントができていない。派遣した先にあるのが、10 名指導した中でも、１名でも習い事で茶道をやりたいと思ってもらえれば成功になるが、そういうカラクリもできていない。実は、夏の課外授業のイベントで文化協会は、伝統芸能のワークショップを準備しているが、参加者が少ない。そういうこともあるので、普段から学校で、伝統芸能に関わることによって、身近に感じて、１人でも続けてもらい後継者に繋がればと考えている。中学校の文化部は種類が少ない。アウトリーチ事業においては、吹奏楽部は実施できているが、美術部はほとんどの学校が実施できていない。今年度、こども芸術祭の中で、宗像市・福津市の全美術部の作品を展示する予定。他の学校の生徒の作品を見ることができるのでいい刺激になる。放送部は、中文連に入っていない。昨年の秋、こども芸術祭の司会を城山中にお願いした。司会だけでなく、舞台裏でやっていることを舞台スタッフやユリックス職員から教えてもらう。宗像ユリックスには、プロの舞台スタッフがいて、巨大な舞台装置があるため、舞台を動かせる人を支えたいという想いがある。そのきっかけで、一人でも舞台裏に携わる人や目指す人が生まれるような状況づくりが必要である。

原：システム構築がまだできていないということか。

南：そう。市の担当者が変わってもサービスや活躍の場、人を育てる目線・視点を持った市の体制づくりが必要。

原：文化芸術の活動を行うにあたっての体制づくりが不十分ということか。

南：そう。文化芸術の懐は広げないといけないのが現状。その中で、宗像市は、小・中・高・大との連携を中心に考えるべきだと思う。学校は義務教育で誰でも恩恵を受けられる場所なので、誰も排除しないような仕組みづくりができると考えている。

大澤：説明文で、継続的なという言葉に加えて、多様なという言葉を入れたらよいと思う。継続的、多様な文化芸術活動で学校・地域との連携と考える。地域の人材を学校へのアウトリーチに繋げていく可能性も十分にあると思うので、ニュアンスとしては持っておきたい。(3)に戻るが、芸術を志す人だけではなく、芸術を支える人という言葉も入れたほうが良い。

原：では、これまでの意見をまとめて事務局で修正してもらうということで良いか。次に、

KPI(目標)の内容・パーセンテージがこれで良いのか協議していきたい。

高尾：補足説明だが、市民アンケート(「最近1年間に、公演や展覧会などで文化、芸術、娯楽などを直接鑑賞したか」)の質問から、鑑賞したものがあると答えた人の割合が63.4%で、子育て世代(49歳以下)の鑑賞したものがあると答えた人の割合が58.2%であった。比べると、子育て世代(49歳以下)の鑑賞したものがあると答えた人の割合が少ない。KPIに記載する数値は、鑑賞したものがあると答えた全体の数値にするか、子育て世代に絞って記載するのか協議したい。

南：市内には大学含めたくさんの学校があり、子どもが絡む部分が多い。複数の大学の先生が言われている話だが、子どもが文化芸術を劇場で楽しむかどうかは、親に連れて行ってもらったかがすべてだというくらいの影響力がある。それが宗像で観ることができると、イベントホールの活用につながる。そのため、子育て世代を中心としたという表現は市としては入れたいという想いがある。

秦：この数値は、いつどれだけの総数なのか。

高尾：令和4年度の市民アンケートで、総数は510、49歳以下が177。

境：正直な感想、コロナ真っ最中の期間に最近 1 年間に、公演や展覧会などで文化、芸術、娯楽などを直接鑑賞したことがある人の割合は低くないと感じた。

大澤：世代で対象を絞るのは良いと思う。全国的に文化芸術の関心を持つのは、高齢者の方が高いと言われている。長期的にみると高齢者の割合ばかりみると、今後人口が少なくなっていったときに、落ち込んでいくことになる。そういう意味では、子育て世代(49 歳以下)の鑑賞の割合を高めていこうという目標は、10 年後に活かせると思う。令和 4 年度前の市民アンケートの数値があればこれまでの経過を根拠にしたら良いと思う。

原：では、KPI に関しては、事務局の提案のとおりでお願いしたい。主な取り組みについては協議するのか。

南：主な取り組みについては次回以降、アクションプランを決めていく中で、代表的な取り組みを書いていく。

原：次に、次第(2)令和 6 年度宗像市文化芸術活動事業補助金の見直しについて事務局から説明をお願いしたい。

高尾：来年度、地域伝統文化継承及び活用事業は世界遺産課が担当するため切り離す。皆さんには、文化芸術創出事業のみ審議していただく。その他、大きい変更点はない。

3.　その他

４.次回日程決め

【候補日】

5/9(木) 終日　202 会議室

5/14(火) 14:00～17:00　　304 会議室

5/22(水) 終日　202 会議室

5/27(月) 終日　202 会議室

5/30(木) 10:00～12:00　202 会議室